

日本教育会館50年沿革史

—— 帝国教育会から日教組へ ——

財団法人 日本教育会館



礎 定

ノタアツクヨリナリ 校長

財団法人 日本教育会館

横枝理事長 書

財団法人 日本教育会館

1977年4月1日竣工

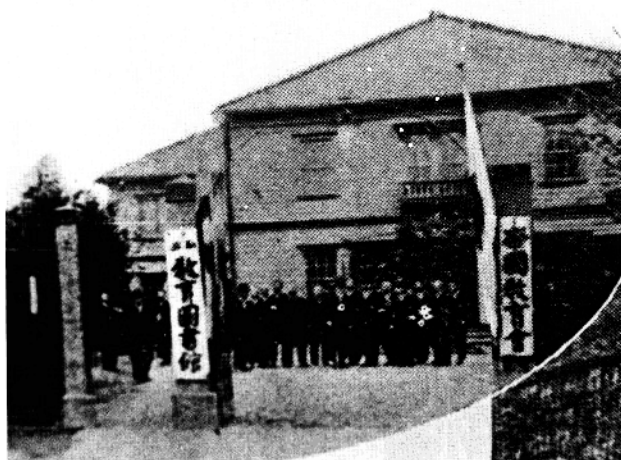
東京都千代田区一ツ橋2-6-2

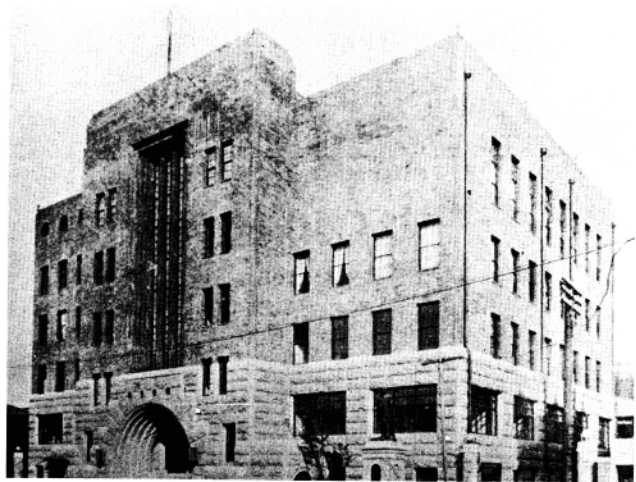
旧教育会館全景のうつり変り



▲旧教育会館(帝国教育会) 1898年(明治31年)頃(千代田図書館八十年史より)

▼旧教育会館(帝国教育会) 1907年(明治40年)～1911年(明治44年)頃

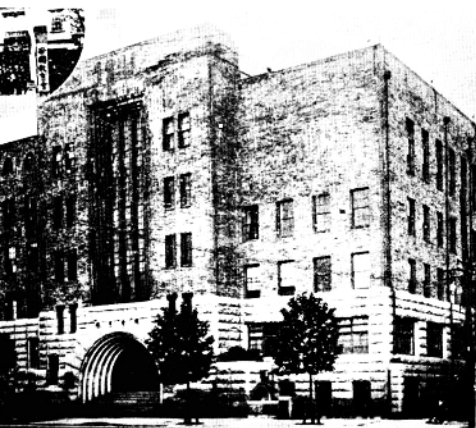




▲旧教育会館 1928年(昭和3年)頃 「帝国教育」No.555より

旧教育会館 1973年(昭和48年)▶
財団法人 日本教育会館

▼旧教育会館 1933年(昭和8年)頃
「帝国教育会五十年史」より



日本教育会館現在地の今・昔の地図



A：旧日本教育会館、現在の日本教育会館の場所
B：現在の東京女子学園の場所



帝国教育会から日教組・財団法人日本教育会館へ



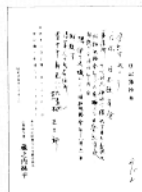
▲日本教職員組合結成大会スナップ 1947年(昭和22年)6月8日(奈良にて)

1948年(昭和23年)5月11日号 1948年(昭和23年)4月1日号 - 1947年(昭和22年)9月24日号



▲当時のニュースを報じる教育新聞

▼教育会館管理の移転登記



昔と今、会館ホール(講堂)での集会スナップ

▼全国小学校女教員大会スナップ

旧教育会館講堂 1933年(昭和8年)頃



▲帝国教育会通常総会スナップ

旧教育会館講堂 1937年(昭和12年)頃

▼新「日本教育会館」での1979年国際児童 童年子供の権利を守る連絡会結成大 会スナップ 1978年(昭和53年)11月20日



▲新「日本教育会館」大ホールでの東京 都教職員組合第62回臨時大会のスナ ップ 1977年(昭和52年)10月6日

旧教育会館の解体から新会館建設へ

◀旧教育会館解体式 (榎枝理事長)

1974年(昭和49年)3月30日



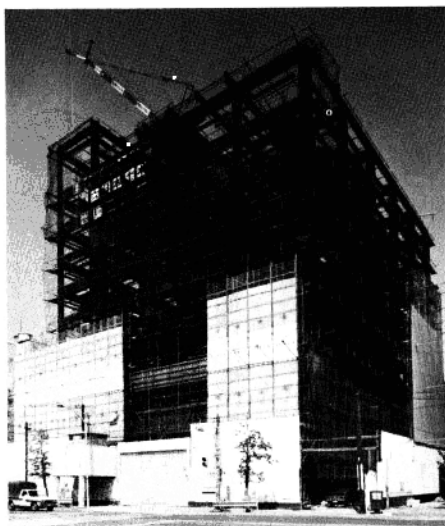
▲解体工事スナップ 1974年(昭和49年)

新教育会館棟上の頃▶

1975年(昭和50年)5月

▼新教育会館地鎮祭(榎枝理事長)

1975年(昭和50年)2月4日



新「日本教育会館」落成式

1977年6月3日



▲横枝理事長



◆新「日本教育会館」大ホールにて



▲会館永年勤続者表彰



新「日本教育会館」の紹介



▲大ホール 3～4F 定員882席

▼正面入口

▼大会議室 300名 防音パーティション75名4室に区分可能



▲教育図書館 ● 8F

▲日本庭園 ● 8F

昔と今、教育会館内の事務所スナップ



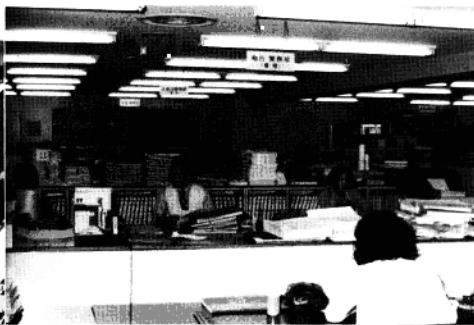
▲旧教育会館事務所スナップ 1937年(昭和12年)頃



▲新「日本教育会館」日教組書記局スナップ



▲新「日本教育会館」事務局スナップ



▲日教済生協事務局スナップ

教 育 塔



▲大阪市大手前大阪城公園内



教育塔(左正門扉)▶

正門扉の左外壁面のテラコッタ浮彫。縦8尺2寸、横4尺3寸風水害の際に表はれたる教育者の児童愛を表現す。



◀教育塔(塔心)

塔心室は塔の下中央の広間にあつて、天井の高さ中央部で31尺、周囲部で14尺、塔心は間口5尺7寸、奥行3尺7寸、高さ12尺。

財団法人 日本教育会館となつてからの歴代理事長



横枝 元文

財団法人日本教育会館
理事長就任
1971年(昭和46年)～
現在



宮之原 貞光

財団法人日本教育会館
理事長就任
1962年(昭和37年)～
1970年(昭和45年)



小林 武

財団法人日本教育会館
理事長就任
1953年(昭和28年)～
1961年(昭和36年)
財団法人日本教育会館
館長就任
1977年(昭和52年)～
現在



岡 三郎

財団法人日本教育会館
理事長就任
1950年(昭和25年)～
1952年(昭和27年)



荒木 正三郎

日本教育会会長就任
1948年(昭和23年)
財団法人日本教育会館
理事長就任
1948年(昭和23年)10月
～1949年(昭和24年)

大日本教育会及び帝国教育会時代の歴代会長

(出典：帝国教育会五十年史 日本育英会二十年記念誌 日本大学理工学部五十年史)



澤柳 政太郎

帝国教育会々長
1916年(大正5年)就任



近衛 篤磨

帝国教育会々長
1896年(明治29年)就任



九鬼 隆一

大日本教育会々長
1884年(明治17年)就任



辻 新次

大日本教育会々長
1883年(明治16年)就任
帝国教育会々長
1898年(明治31年)就任



永井 柳太郎

帝国教育会々長
1943年(昭和18年)就任



永田 秀次郎

帝国教育会々長
1941年(昭和16年)就任



鎌田 栄吉

帝国教育会々長
1933年(昭和8年)就任



林 博太郎

帝国教育会々長
1928年(昭和3年)就任



佐野 利器

帝国教育会々長
1946年5月(昭和21年)
就任



河原 春作

帝国教育会々長
1946年1月(昭和21年)
就任



岡部 長景

帝国教育会々長
1944年(昭和19年)就任

刊行にあたって

財団法人 日本教育会館理事長

榎 枝 元 文



日本教育会館が建設されてから五〇周年を迎えました。その記念事業の一つとして本書を刊行し、日本教育会館の歩みとともに、戦前、戦後を通じての日本の教育の歩みの跡を明らかにしてみました。

戦前、全国の教職員の拠出金をもとに建設された旧教育会館には、帝国教育会（後に日本教育会）の本部がおかれ、いわば明治憲法と教育勅語にもとづく国家主義、軍国主義教育の推進本部的役割を果たしてきました。

戦後、教職員組合運動が高揚し、各地で教育会の解散が教職員自身の手で行なわれ、一九四七年に日教組が結成されると同時に、日教組本部書記局は教育会館内におかれ、同時に日本教

育会の解散を実現し、教育会館の運営をはじめ、その維持管理など一切が日教組を中心にした「財団法人日本教育会館」の手にゆだねられることになりました。そして、その後教育会館は、平和と民主主義を基本にすえた教育労働運動の根拠地としての役割を担って今日におよんでいます。

一九七七年の日教組結成三〇周年を記念して、新教育会館の建設が日教組を中心とする関係諸団体の協力によって行なわれ、民主的教育文化の殿堂として、さらには六〇万教育労働者の団結のシンボルとして、私たちは新教育会館を共有することができました。

本書にも明らかなように、教育会館の歴史のなかには、戦前、戦後を通じての明暗もごもごの姿が刻まれています。しかし、その五〇年の歴史の大半は、戦後の「明」の時代であり、しかも私たちのたたかいかいによって、五〇年以降のこれからの歩みは、一層その明るさを増しつつけるものと確信します。

日本教育会館の一層の充実と発展を心から祈念し、刊行のことばとします。

目

次

グラビア

刊行にあたって

第一章 前 史

一、この土地・建物の由来 9

二、大日本教育会の設立と運動 10

— 御沙汰金・御料地・建物の下賜 —

三、大日本教育会から帝国教育会へ 13

— 本館・図書館の改築 —

※資料

第二章 戦 前 編

一、教師よ、政治的自覚を 33

— 教育会を教員組合へ —

二、「翼賛」機関から職能自治団体へ

— 沢柳政太郎会長就任 —

36